

Say together BUTTER! Instead of cheese!

Viking Prestige 乗船体験記 & France Switzerland 周遊記

平成 24(2012)年 4 月 5 日(木)~26 日(木)

京都市 畑中治朗(73 歳)

Pre Cruise

Budapest, Intercontinental Hotel 4 月 5 日(木)~8 日(日)3 泊

4 月 5 日(木) 桜前線が遅れ気味の京都を早朝に出発

自宅から駅までは下り坂なのでトランクをゴロゴロころがして行く。いつもの様に「はるか 3 号」の車内にパンとコーヒーを持ち込んで軽い朝食。関西空港(KIX)に 7:41 定刻着、Lufthansa(LH)にチェックイン、741 便はエアバス 346 からボーイング 747 に変わっていた。通路側に縦に二人分 37D、38D と指定したところ運よく 2 人共「E」「F」が空席、Frankfurt(FRA)まで手足を伸ばしてゆっくり行けた。海外旅行は着物に限る。セキュリティチェックも No problem>Welcome である。ベルトも外し靴まで脱がされるのと違い、両手を挙げれば OK なのは有難い。和服は巻きスカートと同じ、機内でも足が浮腫む事が無く毎回重宝している。FRA はトランジット、日本人が並び出したので付いて行き、聞いてみるとオランダ行とのこと。改めて電光掲示板で再確認し、LH1340 便に乗り込み Budapest(BUD)に向かった。日本人は我々 2 人だけ、夕刻の BUD に降り立った。BUD の施設は判りやすい。シャトルバスが便利で安心して利用できた。Intercontinental Hotel に着く。ホテルでは事前に依頼していた「チェックインは 20 時過ぎ、ドナウ川の見える部屋、オペラ座のチケット予約、Sopron(ショプロン)の情報入手」全てが適確に処理されており快適。当たり前前を当たり前にするのは当然のことだがこれがなかなか難しい。この点で当ホテルは及第点がつく。部屋から眺めるドナウ川とくさり橋の夜景が素晴らしく、首都の情景でこれ程素敵なライトアップを見たことが無い。王宮にしつとりと溶け込んだ川面をクルーズ船が行き交う様を、じっくり見詰め、至福のひとつを過ごした。

明けて 6 日(金)ゆっくり朝食を楽しむ

ウェイター、ウェイトレスも大勢で絶えず気を遣ってくれる。ご飯も味噌汁もあり、贅沢な朝食を味わった。街を探索したが、判りやすい街のようである。チケットもあり、ドレスアップしてオペラ座へ向かった。17:00 開演、22:30 終演、“Richard Wagner’s Parsifal” 5 時間のオペラチケットに邦貨 1,700 円は安い。ロビーは夜会服のマダムで一杯。エリザベートの特別席もあった。幕間は 2 回あり、ロンドンから来た日本人のカップルとワインと一緒に、聞けばイースターホリデーを利用してこのオペラを観に来たと云う。ロンドン・

ブダペスト間はエアーで 2 時間ほどの近さと聴いて驚いた。席に戻ると観客の熱気が上階のバルコニー席にまで上がってきて暑い程。夢心地でホテルに戻った。

7 日(土) Sopron(ショプロン)へ

1989年11月9日ベルリンの壁が崩壊、当時外国紙はThe tumbling down of the Berlin Wallと報じた。そのきっかけはハンガリー政府黙認の下、同年 8 月にショプロンで開催された「パン・ヨーロッパピクニック」にあると読んだことがある。ショプロンについてホテルに照会する英作文を師事する神父に見て貰ったところ、Your government decided against the will of the Soviet Union.と添削。ハンガリー政府の苦衷の決断であったこの一節が背中を押してくれ、ショプロン行を決めた。



マジャール鉄道の切符を買いにブダペスト東駅へ。切符売場を探し当て、英語を話す窓口で、滞在時間 5 時間確保の往復座席指定券を買い求めた。出発ホームの案内が無く、列車案内所で尋ねると、出発ホームは 30 分前に判るから電光掲示板を見よという。構内を探索して、昔の上野駅と同じだと合点がいった。到着した列車に機関車を付け、引き出してから、待機している出発列車が逆送でゆっくり入ってくるシステムである。日本の新幹線なら到着後 10 分間で清掃、乗り込みが終わればすぐ出発という状況からすれば全くの別世界。しかし見ていると楽しい。ショプロン駅まで着いたのは良かったが、タクシー運転手はマジャール語。次の運転手が少し英語を話すので交渉し 40 (9,000Fr)でチャーターし、キャンプの跡地に向かった。誰もいない草原に当時の様子がパネルに掲示され、記念公園になっていた。ピクニックの会場から千数百人の人々が一時的に開かれた国境を抜け出した。この後十数万人の東ドイツの国民が、脱出、亡命したそう。老若男女が東ドイツを捨て自由を求めてキャンプした写真が掲示されていた。荒涼とした地に立ち草原を見ると自然と涙が溢れ出た。73 年の人生で一番感動的な一日になった。雨の中、東駅に帰着。乗ろうとしたタクシーはどうも怪しい。手の平に料金を書かせてホテルへ帰ったが、側道に着けて玄関に着けようとしな。玄関に着けさせ金額を聞けば案の定、吹っかけてきた。手の平の数字を見せてきっちり支払った。運転手は邦貨で約 500 円釣り上げようとしたのだが、日本人は甘い、与しやすいと思われてもしかくなのでやりあった次第。これもまた旅である。

Danube Waltz : Cruise Viking Prestige

Budepest~Passue4 月 8 日(日)~15 日(日)7 泊

寅さん風に Cheese の代わりに Three! Two! One! BUTTER!

8日(日)

午前中にクルーズのツアーで行かない所を回り、くさり橋をゆっくり渡り博物館へ。帰りはクルーズ船を撮影してからホテルに戻った。ホテルから船乗り場までは徒歩の距離。従ってブダペストからクルーズ参加の場合はこのホテルが最適である。チェックインのあとすぐ船室へ、キャビンの窓は水面すれすれの部屋、どの部屋も詰まっていた。安いキャビン指向は我々だけではないと安心した。早速船内を探検する。レストラン、ラウンジ、サンデッキ、図書室、バー、全てにキャビン料金の差はない。下層のキャビンは寝るだけと割り切れば良い。乗客定員 188 人の空キャビンは無さそうで、約 180 人が乗り込んだと思われる。レストランでシャンパンのウェルカムパーティー。参加者は首からネームプレートをつら下げている。急遽バゲージタグに海外旅行用の名刺(北斎のイメージに名前を大きく入れたもの)でネームプレートを作成し、ディナー席に向かった。食事は美味しい、食事時のワイン、ビールはフリー。ゆらゆらしている川面を眺めながらゆっくり会話を楽しみながら…といきたいが会話能力の不足が辛い。随分助けていただいた。



明けて9日(月)

一夜を共に船で過ごただけなのに皆親しげに挨拶をかわす。朝食の後下船し、市内観光に向かう。英雄広場から王宮へ、そこでぼったりオペラ座で幕間を過ごしたロンドン在住の日本人カップルと出会い、良い旅をと短く言葉を交わし別れた。後からクルーズの仲間から関係を問われたが、私達も偶然の再会に吃驚した次第である。ディナー席は、クラスメートと何十年ぶりに再婚したという Bryan & Maureen 夫妻、ニューヨークから来た Kamal & Ivy 夫妻、香港の水先案内人 Thomas & Agnes 夫妻、と私達の 8 人。賑やかな夕食となった。ディナーの後 Prestige 号は出港とのアナウンスがあり、サンデッキに集まる。川下に一端下がりライトアップされたブタペストとお別れ、心憎い演出効果の出港である。デッキで夜景を楽しみながらひと時をすごした。



10日(火) 少しずつ判ってきた

客室係の Vinter は夫婦で乗務、レストランの給仕職にも夫婦で乗務しているのがある、思えばこれ以上安心できる職場はあるまい、Vinter は親切で、随分気を遣ってくれた。Viking Prestige 号の船籍はスイスだが、本社はアメリカ、従って乗客はアメリカ人が多い。言葉を交わしたのはテキサス、ニューヨーク、カリフォルニア、カナダの人達である。船は 1 週間かけてドナウ川を上る。乗客はヨーロッパには強い思い入れがあり、大型で、ヘルスセンターのようなエンターテイメント指向のクルーズ船を好む層とは異なると思われた。華僑の人達とも親しくなった。香港の水先案内人、公認会計士、工学博士、実力社会の欧米でのリタイヤ組、随分落ち着いたカップルであった。香港のパイロットは船長を退職後始めたとのこと、夫人は学生のレポートの返信に追われていた。工学博士は当て字の漢字名刺を持ち夫人は不動産コンサルタント、日本語堪能と後から判った。それ以外にも 1 組、7~8 人のグループがいた。私の蝶ネクタイに皆さん大変興味をお持ちの様子、ポケットチーフとボータイが揃っているからである。何のことはない、古いネクタイを切って細い部分をボータイに、太い剣の部分チーフにただけのものだが、Kamal は抜き出しては振り回し他のテーブルに吹聴する。後は寅さん風に BUTTER のかけ声で写真を撮り、楽しい食事になった。Brastilava(ブラスティラバ)に入港、市内観光と Slovakia の家庭訪問の二手に別れてバスに乗り込む。スラブの人々の生活に興味のある我々は家庭訪問に加わった。若い女子学生風のガイドに連れられ Home Visit 先の農家へ。裏に農場を持ちワインを醸造している主人、嫁、孫 3 人の歓待をうけた。しかしチェコの話になると表情が変わるのが窺え、厳しい国際情勢の一端を垣間見た。質素ながらも家族で作業、かつての日本の農家もこんなものかと妙に感心して退去した。帰船後ラウンジで抹茶を点てる。持参の干菓子を呈し茶筌を振ると、皆興味津々で華僑のグループからも質問を受け、国際色豊かな野点風の茶席になった。

11日(水)はVienna(ウィーン)

バスで車窓観光(車窓観光は日本のツアーだけではない)。10:00 Stephans-platz(ステファンプラッツ)で解散し、2 時間のフリータイム。10 年前義兄夫婦と滞在した Hotel Ambassador はそのまま残っていた。Sacher(ザッファー)で粉末チョコレートを購入後集合場所に向かう。地元のガイドは我々日本人を心配しているようだったので、集合時間より早めに戻った。一旦船に戻り、ランチの後、希望者のみ市内の生鮮市場へ。ガイドの指示に従い地下鉄の切符を購入し、そろそろ市場に向かう。チーズの店頭で説明を受け試食、Where is vino? と云うと馬鹿受けて、参加者は大爆笑。しばらく散策の後、船に戻った。夜はコンサートとバレエである。本場のものかと期待したが、観光客向けのショートバージョン、それなりに楽しんだが一考を要する。会場は貴族の館らしき Palais Auersperg の大広間。ウィーンフィルのニューイヤーコンサートのようにラデッキー行進曲で締めくくったがやはり本物を味わいたかった。

12日(木) Wachau Valley(バツハウ渓谷)を Prestige 号は上っていく

左岸のキロポストから 100m を秒取り。50 秒で通過する。時速換算 7,200m つまり時速 7.2km、Thomas に聴けば OK と云う。川の流れを考えるとこんなものだろう。世界遺産バツハウ渓谷の町デュルンスタインで下船し散策。午後はメルクへ。修道院を見学したが、図書室だけが判った。街をゆっくり眺めながら船に戻る。下船時は船内用の ID カードを渡して下船カード(桟橋番号、レセプションの電話番号、プログラムディレクターの電話番号を記載)と地図、パンフレットなどを受け取る。従って船に戻らない客があればすぐ対応できるようになっており安心できる。

13 日(金) Salzburg(ザルツブルグ)終日観光

昼食は各自でとる。ヨーロッパでよく見るチェーンレストラン Nord Sea で食べていると華僑の公認会計士夫人が入ってきた。二言、三言交して街に出た。川の両側に街が広がり、祝祭劇場、教会、モーツアルトの家、大学、城等 1 日の観光ではとても無理。4、5 日滞在すると良いだろう。名物のチョコレートと記念のボタン、ジャムを買い、集合場所に。途中 Paris London Strasse があり Thomas も気付いていた。3 都市一度に訪問と大笑い。



立ち飲みのカフェに入り、手洗いを借りようとするのがまた面白い。先払いしたレシートに 4 桁の暗証番号が記入されており、この番号を入力してはじめてトイレのドアが開く。所変われば、トイレも変わることを経験した。船に戻るとデッキに総員が上っておりお帰りの挨拶を受けた。今夜はキャプテンディナーである。老妻は真紅のドレス。メタボ、短軀短足、顔だけがやけに大きい私も和服なら格好もつく。羽織、袴、白扇を持って入場しフラッシュを浴びた。ディナーメニューは次の通り。

CAPTAIN'S FAREWELL DINNER MENU			
FIRST COURSE	Salmon Caviar & Crisp Potato Cake <small>egg仁encrusted, micro greens, salt, herb crumbing</small> Champagne Risotto & Grilled Shrimps <small>sausage fr. thyme, loc., abate sauce</small> Leaf Lettuce & Caramelized Pear Salad <small>raw bread crumbing, cream oil, salt & herbs, daisy & alfalfa sprouts</small> Roasted Forest Mushroom Velouté <small>crisp croutons, mushroom dill, garlic oil, sage</small>	DESSERTS	Viking's Hor Grand' Manier Soufflé <small>orange vanilla sauce</small> New York Cheese Cake Fresh Fruits pineapple
MAIN COURSE	"Tournedo Rossini" Grilled Filet Mignon & Pan-Sautéed Foie Gras <small>glazed vegetables, potato potatoes, herb sauce</small> Baked Lobster Thermidor <small>wild rice, artichoke, white asparagus</small> Crisp Calce Root "Piccata" <small>smashed potato, peas</small>	CHEESE PLATE	<small>The following cheese plates are accompanied by local honey</small> Appenzeller <small>swiss and hard cheese, cow milk, herb oil</small> Coeur de Lion <small>Swiss, cow milk, herb oil</small> Gruyère Cheese <small>Swiss, cow milk, herb oil, olive oil</small>
		SUGGESTED WINES	La Chablissienne <small>Chardonnay, chablis, 2016, bottle 25.00 €</small> "California Hacienda" <small>cabernet sauvignon, usa, 2015, bottle 26.00 €</small>

写真を撮るときは何時もの様に BUTTER である。今夜は Farewell Party。皆気合いを入れて声を揃えた。Say together BUTTER! Instead of cheese! Three! Two! One! BUTTER! 大きく口を開けた面々の写真である。



ディナーの後は地元ミュージシャンによるライブショーに深夜まで大騒ぎが続いた。

14日(土) Passau(パッサウ)入港

1 グループ 20 人程の、多くのグループに分かれて地元ガイドによる観光。よく見ているとアメリカ人はチップの払い方が実に上手い。後で聴いてわかったのだが、1 ドル紙幣を沢山持ってくるとのこと。一寸助けてもらった時、観光が終わりガイドと別れる時にさっと渡している。ドルは世界通貨で使い勝手が良い。ユーロはコインだが、1 ドル紙幣は 80 円見当でカッコいい。これくらいなら我々も気楽に使えるようである。今回の教訓としておこう。

15日(日) 下船の日

3 : 30、5 : 30、 6 : 45、 8 : 15、 8 : 15、 10 : 10 の時間帯の 6 組に分かれて下船する。荷物は各組ごとに Red、 Purple、 Orange、 Blue、 Green、 Pink の Tag を指定され、搬出

時刻も指定される。3:30は3カップルでミュンヘン空港に直行しDL9491、BA947に搭乗。多忙なビジネスマンなのだろう。後はそれぞれUA903、LH410、US709、KL1796、AC847等の便に合わせて出発。8:15のもう1組はプラハ周遊のポストパッケージツアーだ。アメリカ各地から早割料金が設定されており、併せて購入すれば空港への送迎サービスも受けられる。東部からの早割は\$1,395。販売方針は実に上手い。グルーピングもよし、バスも到着、別れを惜しんだ。しかし別にもう一杯の船が横付けされ、下船客がレセプションを横切り始めてからおかしくなってきた。我々はこの後個人の鉄道旅行なので、スタッフには事前に指定券を見せタクシーの手配を頼んでおいたが、予約時間の8:30になってもなかなか乗れない。別の下船客に車椅子、身障者、乳母車の人が多く、そちらに優先的に回ってしまったらしい。鉄道駅の計画がタイトだからと迫り、ようやく乗り込んだ。日曜日で鉄道駅の窓口が9:00からになっているのには慌てた。パスのバリデーシヨンスタンプが必要と訳を云って列の先頭に入れて貰い、なんとか9:24発DBのICE228号に間に合った。落ち着いてからパスを見ると、係員は日付を間違えており、2か月間有効のところを5日間にしてている。車掌に訂正させたが、これからケチがつき始めた。ICE228号は遅れだし、フランクフルトに30分延着、予約していたSNCFのTGV9580号に間に合わず乗れなかった。食事つき30€の指定券が惜しい。

列車のアクシデントはさておき、このクルーズは総じて楽しかった。入港ごとに歴史的な都市を観光し、世界遺産も訪ねた。そして船内では、料理、ワイン、ビールを楽しみ、沢山の友人ができた。帰国後もKeep in touch、文通、交際を続けようとメールがあり交流が深まっている。このクルーズは個人旅行がお勧めです。

ご参考:

個人旅行を計画される方に参考までに気付いた点を列挙しました

1. 現地参加のリバークルーズは個人旅行がお得です。EARLY BOOKING DISCOUNT 2-FOR-1 を利用するのがよいでしょう。私たちの場合は出発半年前の平成23(2011)年9月29日に払い込み、1ドル@77.48円2人分で303,102円でした。121日前まではキャンセル料100ドルで済みます。その後、出発中止を担保した旅行変更保険に加入。航空運賃の底値(冬料金のぎりぎりは4月10日)時期に合わせて4月5日に出国しました。
2. Hungry 通貨はFt(フォリント)。日本で流通が少なく高くつきます。クレジット決済では1Ft 0.37円で大変有利でした。しかもほとんどクレジット決済が可能でした。
3. Budapest から乗船される時は前もって2~3泊されることをお勧めします。空港からホテルへのアクセスもシャトルバスが判りやすく安くて便利です。
4. クルーズ船にチェックインした翌日は市内観光に出かけます。従ってそれ以外の名所を訪ねられたらよいでしょう。夜はオペラ座がリーズナブルなチケットがあり最高です。
5. Intercontinental Hotel は船乗り場に近く、くさり橋が目の前。部屋から見える夜景も素晴らしく、事前にオペラ座のチケットも頼めました。
6. 英文表記の名刺の作成をお勧めします。姓名と住所、メールアドレスでよいでしょう。

7. Budapest Keleti(ブダペスト東駅)から Sopron までは 216km、2 時間 30 分、途中から私鉄に変わるが直通運転があり乗り換え不要、往復 1 等座席指定で 11,260Ft(邦貨 4,140 円)はかなり安いと思います。Pan Europe Picnic の跡地を訪ねられるときは Sopron 駅からタクシーが便利です。英語の話せる運転手の名刺を貰っています。必要あれば代理店を通して御照会ください。チャーター料金 40 万(もしくは 9,000Ft)。
8. クルーズの後、DB を利用して Passau 駅から鉄道旅行を計画される際、列車の乗り継ぎはお勧めできません。到着駅で泊まるのがよいかと思います。下船時のタクシー予約は、列車出発時刻の 2 間前位がよいかと思います。
9. チップには 1 ドル紙幣が便利です。沢山両替していかれることをお勧めします。
10. 何かのお役に立つことがあるかも知れません。ご照会下されば情報提供は可能です。

Post Cruise

4 月 15 日(日)~17 日(火) Strasbourg(ストラスブルグ)2 泊

ホテルのレセプションは丁寧、判りやすい英語で助かった。紹介されたレストランもアルザスの地方料理、団子の唐揚風と煮込み料理が旨かった。低床式の市電が街によく合っている。朝食時、パリから来た日本人姉妹と一緒にになった。姉は茶道教授、妹はアマチュアカメラマン、東京で開く個展の案内をいただき、再会を約し別れた。ホテルは Best Western Monopole Metropole、茶道教授と一緒に visitors' book に記帳しています。

4 月 17 日(火)~19 日(木) Reims(ランス)2 泊

藤田画伯の礼拝堂は閉鎖中だったが、美術館で大作を観ることができた。画伯の後援者であるシャンパンメーカー G. M. Mumm の屋敷を訪ねると、執事がでてきて工場を教えてくれたので見学ツアーの事務所へ。日本語のガイドツアーは無いため、ショップへの案内を求め、見学者用のシャンパンを 1 本購入して退去した。大聖堂の前ではドゴールとアデナウアーの独仏和解の銘板がありユーロの原点を垣間見た。

4 月 19 日(木)~21 日(土) Mont Saint-Michel (モン・サン・ミッシェル)2 泊

フランスの東端から西端へ。TGV5471 号は出発してから 2 駅目だが既に 10 分の遅れ。しかし健気にも遅れを取り戻し定刻に Rennes に到着。バスはシニア割引もあり、車窓からの眺めも素晴らしく、順調な旅に満足した。ここまでは良かったが、ホテル Relais Saint-Michel に着いた後あまりの手抜きサービスに愕然とする。チェックイン時刻、チェックアウト時刻を書いたものではなく、朝食時には請求しないとコーヒーも水もでてこない。最少のスタッフは気の毒なほどである。夜遅くチェックイン、早朝ばたばたと出発する日本のグループが、ホテルをここまで付け上がらせたのであれば、責任の一端は日本の旅行会社にあると思う。General Manager に一筆書いてレセプションに渡したが通じただろうか。

4月21日(土)~25日(水) Switzerland Geneva(スイス・ジュネーブ) 4泊

Rennes から Lyon へ TGV5324 号に乗車。着いたところは Lyon-Part-Dieu。乗り換え予定の在来線が遅れていたため、ホームの複数の客に念を押して別の列車に乗りこんだ。車内でも車掌に確認するため「Parlez-vous Japonais?(日本語わかりますか)」と尋ねたところ、大きな声で乗客に声をかけ、英語の喋れる女子学生を探してくれた。「Bellegarde 駅で乗り換えですが、次の列車にはおそらく間に合うでしょう」と聞かされ一安心。無事に Geneva (Cornavin) 行に乗り換えてゆっくり席に座った。列車はレマン湖上流の川沿いに走る。

Geneva(Cornavin)駅 7 番、8 番のフランス側 SNCF のホームに降り立った。ホームにはパリ行 TGV に乗るためだろうか、待ち合わせている日本人ツアー客に出会い、軽く会釈する。我々がローカルの在来線から出てきたものだから吃驚していた。長い通路を経てスイスに入国する直前に、スイスの官憲が不審な乗客がいないか目を光らせている。パスポートコントロールの要否を聴くが問題なくスイス側に抜けられた。ホテルは駅前なのだが、駅自体がレールシティーに変わっており、立体構造のため判りにくく、ようやく無事にチェックインできた。朝食時、学者風の日本人紳士と言葉を交わしたところ、学会が開催されるとのこと。日によって宿泊料の騰がる理由が判った。スイスのホテルは市内パスが付いているので実に有難い。毎日市電、市バスを乗り回した。モン・ブランの山麓を列車で一周しようと計画したが、モン・ブラン急行が 11 月 30 日迄工事中のため不通。Geneva→Montreux→Zweisimmen→Interlaken Ost→Luzern→Geneva 約 500km の山を越え、湖に沿って行く登山電車のゴールデンパスラインに切り替えた。車窓風景満喫の旅である。長距離になっても、床下にモーターの付く日本の新幹線とは違い、機関車が引っ張る客車なので、疲れることもなく一日を楽しめた。最終日にはパレ・デ・ナシオンの国連を訪ねた。パスポートのコピーしか携帯しておらず、原本が必要と云われ慌ててホテルに取りに戻る。他国人の ID カードが羨ましい。国民総背番号制度も良いが欧米のように社会保険カードと一体となったユニバーサルデザインの ID カードが不可欠と実感した。時計博物館等ジュネーブを 5 日間楽しみ。列車で GVA へ。自動チェックインにとまどいながら FRA で乗継ぎ、KIX に 26 日降り立った。梅田で途中下車し、鮎をばくつく。やっぱり和食はウェット、寿司は飽きない。歳のせいか連休は時差ぼけの解消に終わってしまった。クルーズで知り合った友人から沢山の写真を頂戴したが、返信が遅れてしまい申し訳なく反省している昨今である。

Viking Prestige 号では Bryan & Maureen 夫妻、Kamal & Ivy 夫妻、Thomas & Agnes 夫妻、に随分助けて戴いた。記して謝意を表したい。有難うございました。